

暫定版

区自治協議会(第8期)を振り返って
～成果と課題～

新潟市区自治協議会会長会議

令和5年3月13日

はじめに

区自治協議会は、平成 19 年の政令市移行に伴う区制施行に合わせ設置されて以来、「協働の要」として、多種多様な地域課題の解決に向けたさまざまな取組を重ねてきました。

本資料は、第 8 期の各区自治協議会が、どのような地域課題に対して、どのように考え取組を展開してきたか、またその取組の結果・成果・課題などについて記録し次期以降へと引継ぐことで、今後の区自治協議会のさらなる活性化へと繋げることを目的に作成したものです。

地域の特性・事情に応じた各区の工夫した取組が記録されていますので、これからの区自治協議会委員におかれましては、自らの区はもちろん、他区の取組についてもご一読いただき、今後の地域活動の一助にさせていただきたいと思えます。

また、巻末には、区自治協議会の活動・運営における課題について、全委員を対象に実施したアンケート結果と、その解決に向けた各区自治協議会の意見交換概要を掲載しましたので、こちらをご参照いただき、今後の活動に際して参考にさせていただきたいと思えます。

結びとなりますが、区自治協議会委員として、住民自治の推進にご尽力いただいた今期 250 余名の委員の皆さまに、会長会議を代表して感謝を申し上げます。

新潟市区自治協議会会長会議

座長 後藤 岩奈

東区自治協議会（第8期）を振り返って

東区自治協議会会長 後藤 岩奈

1 はじめに

東区自治協議会では、地域を取り巻く環境が変化していく中、地域課題解決のため第7期まで、設置する各部会において毎年度、区自治協議会提案事業を実施してきましたが、各部会では、事業の準備や検討に多くの協議時間が割かれることで、地域課題に関する深い議論ができないという課題がありました。

そこで第8期では、委員任期の1年目を地域課題に関する調査・研究に充て、2年目を調査・研究に基づくアクションの年と位置づけ、区自治協議会提案事業を実施してきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、各委員が思い描く活動はできなかった部分もあるかもしれませんが、委員一人ひとりが、区民と区役所をつなぐ「協働の要」としての役割を果たすため、考え、行動した2年間だったと思います。

次期の東区自治協議会において、さらなる地域課題の解決に取り組んでいただけるよう、第8期の東区自治協議会の成果や取組をここに報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 「東区バス（松崎ルート）への小型ノンステップバス」の導入

東区では、平成19年4月から2路線（松崎ルート・河渡ルート）の区バスを運行しており、区民の移動手段として利用されています。第7期の令和2年9月に市長へ「東区バスへの小型ノンステップバス車両の導入を早期に進めていただきたい。」との要望書を提出いたしました。

その結果、第8期の令和3年10月より東区バス（松崎ルート）において、小型ノンステップバスが導入され、乗降がしやすくなったことで区民の皆さまから喜ばれており、大きな成果であったと思います。

イ 会議運営

第8期の会議運営は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたと感じています。緊急事態宣言等による会議会場の利用制限などにより、全体会や各部会の休会・書面開催、会場レイアウトの変更など、これまでにない運営を余儀なくされました。また、全体会の議論が低調であったと認識しています。第8期

の後半は、新型コロナウイルス感染症の実態や対処方法などが分かってきたことから、しっかりと対策を取り、意見が出ない場合などは、議論が活発となるよう強引ではありませんが指名により発言をしてもらうなど工夫を凝らしながら取り組みました。今後、議論をどのように活発化させるかは、各委員が抱える日頃の課題感や所属する団体の活動等を共有していくことが大切であると感じています。第9期の委員の皆さんが自ら考え、区自治協議会の活性化について意見を巡らせることを期待します。

ウ 区自治協議会の認知度向上への取組

平成30年度の「市政世論調査」では、東区は、区自治協議会の認知度が8区中、最下位となっていました。区自治協議会の活動を知ってもらうため、各事業の中で積極的にPRするとともに、広報紙「自治協かわらばん」を区だよりの紙面に掲載するなど、認知度向上への取組を行ってきました。

令和2年度の同調査では、区自治協議会の認知度が2.6ポイント上昇しており、これまでの積み重ねが実を結んだものと感じています。

とはいうものの、決して高い認知度ではありませんので、区自治協議会の活動や取組を多くの区民の皆さんに知ってもらうための取組を模索していきます。

エ 区ビジョンまちづくり計画

新潟市では、令和5年度から令和12年度までのまちづくりの方向性を示す「新潟市総合計画」を策定しました。それに伴い、東区においても「東区区ビジョンまちづくり計画」が策定されました。

東区自治協議会では、令和3年11月に開催された「区ビジョンまちづくり計画策定 東区自治協議会ワークショップ」を皮切りに、各部会においても協議を重ねながら区へ意見を述べてきました。

今後、「東区区ビジョンまちづくり計画」に基づき、東区の特色を活かしたまちづくりが行われ、区民の皆さんが心豊かに東区で暮らしていけるよう期待します。

(2) 部会・提案事業について

東区自治協議会では提案事業について、単年度での事業実施には事業の準備や検討に多くの協議時間が割かれ、深い議論ができないまま事業実施に至るとの課題があったことから、令和3年度は、地域課題の解決に向けた調査・研究の年と位置づけ、各部会でテーマ設定を行いました。

テーマ設定の具体的な方法は、関係部署から区の現状を聞き取るとともに、日ごろ各委員が感じている地域課題について、ワークショップ形式で3回程度意見交換を行いながらテーマの絞り込みを行いました。

その後は、テーマに関する学習会や勉強会、アンケート調査などを実施し、令和4年度の事業内容などを検討しました。

令和 3 年度に設定した各部会のテーマは以下のとおりとなります。

第 1 部会「自治会・町内会の担い手不足解消」

第 2 部会「“地域で子どもを育てる” 意識と地域の子どもの居場所支援」

第 3 部会「公共空間・施設の利活用」

令和 4 年度は、各部会で設定したテーマを基に事業を実施しました。

ア 第 1 部会

第 1 部会は、「市民協働部門」として、コミュニティ（地域活動・市民活動）、防犯・防災・交通安全や行政運営などを所管する部会です。

令和 3 年度は、勉強会や自治会長・町内会長を対象としたアンケート調査を行いながら、地域課題を「自治会・町内会の担い手不足解消」と設定し、令和 4 年度は、テーマの解決方法として、自治会・町内会の活動を知ってもらうための「回覧板（バインダー）」の作成（運営に携わる方を増やす取組）及び活動の効率化などを図るための「運営事例集（活動に関する負担軽減につながる取組）」の作成に取り組みました。

イ 第 2 部会

第 2 部会は、「福祉・教育・文化部門」として、福祉・子育てや教育・生涯学習、文化・スポーツなどを所管する部会です。

令和 3 年度は、学習会や東区内の子ども食堂運営者を対象としたアンケート調査を行いながら、地域課題を「“地域で子どもを育てる” 意識と地域の子どもの居場所支援」と設定し、令和 4 年度は、テーマの解決方法として、東区社会福祉協議会と連携して「こども食堂支援に関するパンフレット・ポスター」の作成及び子ども食堂の運営者と支援を考えている方々とのつながりづくりを目的に「こども食堂フェア」の開催に取り組みました。

ウ 第 3 部会

第 3 部会は、「産業・環境部門」として、商工業・農業・観光や住環境（公害・ゴミ・公園・下水）、都市交通・都市景観、自然環境などを所管する部会です。

令和 3 年度は、勉強会などを行いながら、地域課題を「公共空間・施設の利活用」と設定し、令和 4 年度は、テーマの解決方法として、東総合スポーツセンターの休館日にあえてキッチンカーを招致することで、にぎわいが創出されるのか実証を行い、実証を基に地域でキッチンカーを活用したにぎわいの創出が図られるよう「地域向けキッチンカー誘致マニュアル」を作成しました。また、東区内の公園などの施設の利活用を促すため、Instagramを活用した「新潟市東区・家族でお出かけ写真投稿キャンペーン」に取り組みました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

昨今のコロナ禍により、私たちの生活様式や行動は、大きな変化を余儀なくされました。会議の書面開催や感染予防対策への配慮などの対応が必要となり、改めて会議の運営方法や、区自治協議会の活動のあり方を見直す時期にあると考えます。

また、今期から、地域課題の把握や効果的な区自治協議会提案事業を実施するにあたり、委員任期 2 年のうち 1 年目を地域課題に関する調査・研究、2 年目をアクションの年とする見直しを図ったことで、今後新しい展開が始まるものと期待しています。

第 9 期区自治協議会が、新しい体制の中で、区民と区役所の「協働の要」としての役割を果たし、私たちの東区がますます住み良いまちとなるよう取り組んでいくことを願います。

令和3年度

【第1部会】

令和4年3月24日

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	区民と協働し、東区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 市民協働分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和4年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 実施回数、参加者数など	<p>市民協働分野を所管する第1部会では、「自治会・町内会の後継者不足」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東区の現状についての勉強会の開催 【開催日】令和3年5月14日（金） 【内容】自治会・町内会、コミ協の後継者不足をテーマとした勉強会 【講師】市民協働課 ○ 自治会・町内会の活動内容に関するアンケート調査の実施 【調査対象】区内自治会・町内会長 263名 【調査方法】会長宛てにアンケート用紙を送付し、郵送、メール等で回収（223名回答、回収率約85%） 【調査期間】令和3年12月15日から令和4年1月5日（22日間） 【内容】役員の任期、活動内容、運営上での課題など ○ 自治会・町内会の活動内容に関するアンケート調査の報告書の作成 【内容】自治会・町内会の活動内容に関するアンケート調査の集計・分析（外部委託）
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の抽出や調査、研究のテーマの選定するにあたり、関係部署から区の現状等を聞き取るとともに、グループに分かれてワークショップを複数回実施した。委員一人ひとりが多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、地域課題と調査・研究テーマの設定ができた。 ・アンケートを実施し、各自治会・町内長が意見を述べる場を設けたことで、区内各自治会、町内会の活動状況だけでなく、東区自治協議会へ期待するものについても把握する機会となった。 ・報告書にまとめ、課題や傾向が見える化したことで、令和4年度に第1部会として取り組んでいく具体的な取組みを協議していくうえでの貴重な検討材料とすることができた。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	区民と協働し、東区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 福祉・教育・文化分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和4年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 実施回数、参加者数など	<p>福祉・教育・文化分野を所管する第2部会では、「地域の子どもの居場所支援」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの育ちと地域の関わりに関する学習会の開催 【開催日】令和3年11月8日(月)13:30~15:00 【内容】「子どもの育ちと地域の関わり」をテーマとした講演と意見交換 【講師】新潟県立大学人間生活学部子ども学科 教授 小池 由佳氏 【参加者】20名 ○ 東区内子ども食堂運営者を対象としたアンケート調査 【調査対象】区内子ども食堂運営者 9者 【調査方法】運営者あてにアンケート用紙を送付し、郵送またはメールで回収(回収率100%) 【調査期間】令和3年12月2日から13日(12日間) 【内容】活動状況、活動の特長と課題、活動の連携先など ○ 東区内子ども食堂運営者を対象としたインタビュー調査 【調査対象】区内子ども食堂運営者 8者 【調査方法】アンケート結果を踏まえ、自治協議会委員が運営者を訪問し、聞き取り調査を実施 【調査期間】令和3年12月22日から令和4年1月14日 【内容】運営上の困りごと、課題、うまくいっていること、今後の活動の見通しなど
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の抽出や調査・研究テーマを設定するにあたり、関係部署から区の現状等を聞き取るとともに、グループに分かれてワークショップを複数回実施した。委員一人ひとりが多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、地域課題と調査・研究テーマの設定ができた。 ・子どもの育ちと地域の関わりに関する学習会は、「地域の子どもは地域で育てる」という意識についての理解を深めるために実施した。有識者の学術的見解や本質的な意味などを学ぶことができ、有意義な学習会となった。参加した委員アンケートでも、「良かった」、「自治協議会活動の参考となった」との評価が多数だった。 ・区内の子ども食堂運営者を対象としたアンケート及びインタビュー調査は、委員が現場の声を直接聞き、運営者の課題認識やニーズなどを把握することができ、令和4年度に実施する取り組みに向け有益なものであった。また、アンケート及びインタビュー結果を運営者にフィードバックしたことで、運営者間の情報共有の一助となったと評価できる。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	区民と協働し、東区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 産業・環境分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和4年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 <small>(実施回数、参加者数など)</small>	<p>産業・環境分野を所管する第3部会では、「公共空間・施設の活用」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東区の現状についての勉強会 【開催日】令和3年5月13日(木) 【内 容】東区の公共交通(区バス)についての説明 【講 師】東区役所地域課 ○ 東区の現状及び事例についての勉強会 【開催日】令和3年11月11日(木) 【内 容】①公園に関する基礎情報の説明(講師:東区役所建設課) ②公園活用事例の説明(講師:公園水辺課) ○ 区バス新車両の試乗会及び次年度事業の実施予定地視察 【開催日】令和3年12月11日(土) 【内 容】令和3年10月1日より運行を開始した松崎ルートの新車両について、第3部会委員を対象とした試乗会を開催した。 あわせて、令和4年度に新規の区づくり事業(賑わいまちづくりプロジェクト)を予定している日本海フェリーターミナル脇の現場を視察した。
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題の抽出や調査・研究テーマを設定するにあたり、関係部署から区の現状等を聞き取るとともに、グループに分かれてワークショップを複数回実施した。委員一人ひとりが多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、地域課題と調査・研究テーマの設定ができた。 関係部署による説明という机上での勉強会にとどまらず、実際に次年度事業を参考として現場視察を行ったことは、令和4年度に実施する事業案検討にも有効であると評価できる。 ・ 区バス新車両の試乗会では、運行ルートの一部を走行することにより、乗客の立場で乗り心地等を確認することができた。また、車いすでの乗降体験を行うことにより、車いす利用者の視点で区バス利用時の安全対策等を確認し考えることに繋がった。
備考	

(※令和4年度 東区事業評価書は令和5年3月中に確定)

各区自治協議会の活動・運営における 課題解決に関する情報共有

東区自治協議会

1. 第1部会

(1) 区民アンケートについて

- **どのような目的や考え方が望ましいか**
 - ・区内には若い人は沢山いるから、自治協議会にも若い人が入りやすくなるように工夫をして、意見を取り入れられるようにするべきだと思う。
 - ・学校や地域がみんな一緒にやっていくことが大切だと思う。
 - ・地元愛を持ってもらえるように市として何か取り組むべきだと思う。
 - ・若い人だけでなく、高齢者が元気になることで、地域は元気になっていくと思う。
- **どのくらいの実施頻度がよいか**
 - ・内容によって頻度はその都度検討すべきだと思う。

2. 第2部会

(1) 区民アンケートについて

- **どのような目的や考え方が望ましいか**
 - ・漠然と東区愛を持っているが、強みや課題を明確に答えられる人は少ないと思うので、それらを可視化するための実施には賛成。
 - ・区民が地域課題と手立てを考える契機となり、主体的にまちづくりに参画するようになってくれると良い。
 - ・これまでに実施した地域課題解決のための事業がどうだったのかを評価する視点もあって良いのではないか。
 - ・東区民自らが地域の魅力を改めて見つめ直す機会になるのではないか。
- **どのくらいの実施頻度がよいか**
 - ・施策や事業に反映するのであれば、同じ人から、施策の実施前と実施後にどう変わったかを聞くべきではないか。

- あまり頻繁にやってもアンケートから得られるものを活かしきれないと思う。
- アンケート作りが仕事になってしまう可能性もある。5年程度空けるのが適当ではないか。
- 東区に転入してくる方に、都度、アンケート協力を依頼してはどうか。

3. 第3部会

(1) 区民アンケートについて

- **どのような目的や考え方が望ましいか**
 - 東区に住んでいることによって感じる「住みやすさ」を調査することで、東区が持っている強みを抽出し、再認識することができると思う。
 - 年代ごとに回答内容の傾向は分かれるため、あらかじめ年代ごとに細分化を行った上で調査を実施すると良いと思う。
 - 若い世代や現役で働いている世代が、これからの東区に何を求め、今何を感じているかを知ることができるような調査にしたいと思う。
- **どのくらいの実施頻度がよいか**
 - 調査するテーマが大きい場合や意識調査を行う場合は、5年や10年という長いスパンの調査が良いと思う。
 - 特定の課題について調査する場合は、数年単位という比較的短いスパンでの調査が良いと思う。